

福井県自然保護センター自然観察の森で 自動撮影カメラにより撮影された哺乳類 (2021年)

福井県自然保護センター*1

要旨：大野市南六呂師にある福井県自然保護センターの自然観察の森において、2021年3月から12月まで自動撮影カメラを設置し哺乳類を調査した。1調査地点に1台のカメラをのべ285日間設置した結果、9種の哺乳類（ニホンノウサギ、ツキノワグマ、タヌキ、アカギツネ、ニホンイタチ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ、ニホンカモシカ）が撮影された。

キーワード：カメラトラップ、ニホンジカ、イノシシ

Fukui Nature Conservation Center*1. 2022. Survey of mammals using camera trap in Fukui Nature Conservation Center's Nature Observation Forest in 2021. Ciconia (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 25:41-42.

Mammals were surveyed using camera trap from March to December in 2021. One camera was set up in Fukui Nature Conservation Center's Nature Observation Forest and a total of 285 days were spent camera-trapping. Nine species of wild mammals were recorded by the camera: *Lepus brachyurus*, *Ursus thibetanus*, *Nyctereutes procyonoides*, *Vulpes vulpes*, *Mustela itatsi*, *Paguma larvata*, *Sus scrofa*, *Cervus nippon*, *Capricornis crispus*.

Key words: camera trap, sika deer, wild boar

福井県大野市南六呂師に位置する福井県自然保護センターには「自然観察の森」と呼ばれる自然観察エリアが設けられており、来所者が整備された遊歩道を自由に歩いて、様々な動植物を観察することができる。自然保護センターではこの自然観察の森内で見られる動植物相の調査を実施しており、今回は2021年に実施した自動撮影カメラによる哺乳類の生息状況の調査結果を報告する。

調査は自然観察の森の「せせらぎの小径」で実施した(36°1'15.4"N 136°34'43.0"E)。「せせらぎの小径」にはそこを横切る「獣道」がいくつかの場所で見られ、特に利用が多いと思われる場所を選び自動撮影カメラの設置場所とした。調査で使用した自動撮影カメラは、ハイクカム SP2 (株式会社ハイク、旭川市)である。このカメラ1台を地上高1mの高さで、平行な地面に対してやや斜め下を向くように立木の樹幹に固定した。自動撮影カメラは一度の撮影で静止画を3枚撮影する設定にし、次の撮影までのインターバルは10秒間とした。

調査は2021年3月16日から2021年12月25日にかけて実施し、15日間ごとに記録メディアとバッテリーの交換などの管理を行った。回収された記録メディアから写真データをパソコンに取り込んだ後、

撮影された静止画から、撮影日時を記録し、撮影された哺乳類を判別した。1回の撮影イベントで複数頭が撮影された場合には、撮影された頭数を撮影回数としてカウントした。同一個体の重複カウントを避けるため、30分以内に同種が撮影された撮影イベントは重複イベントとみなしてカウントから除外した。

調査の結果、のべ撮影日数は計285日、哺乳類の撮影イベントは276回であった(表1)。撮影された哺乳類はイノシシ *Sus scrofa* が最も多く、全体の34.4%を占めた。次いでニホンジカ *Cervus nippon*、ニホンノウサギ *Lepus brachyurus*、ハクビシン *Paguma larvata*、タヌキ *Nyctereutes procyonoides*、ツキノワグマ *Ursus thibetanus*、アカギツネ *Vulpes vulpes*、ニホンイタチ *Mustela itatsi*、ニホンカモシカ *Capricornis crispus* の順であった。哺乳類の撮影イベントのうち、哺乳類が写っているものの映像が不鮮明であるものや、ごく一部のみが写っているため種を識別できないものが7回あった。哺乳類以外の野生動物では、鳥類が撮影されていたものが4回(オオアカゲラ1回、ヤマドリ1回、種判別不能2回)あった。

イノシシの撮影回数が最も多くなった理由としては、夏から秋にかけてのイノシシの子育て期間中に、メスの成獣が2~6頭の幼獣を引き連れる様子が見

* 執筆者・連絡・別刷請求先 (Corresponding author) : 大宮正太郎 Written by Shotaro OMIYA. E-mail: s-oomiya-ov@pref.fukui.lg.jp

1 〒912-0131 福井県大野市南六呂師 169-11-2

Minamirokuroshi 169-11-2, Ono, Fukui 912-0131, Japan.

表1 哺乳類各種の月別撮影回数 (2021年).

種名	撮影月(括弧内はカメラ稼働日数)										総計
	3月(16)	4月(30)	5月(31)	6月(30)	7月(31)	8月(31)	9月(30)	10月(31)	11月(30)	12月(25)	
イノシシ	2	3	4		7	13	31	24	9	2	95
ニホンジカ	4	1	4	6	6	22	23	13	4	6	89
ニホンノウサギ	2	15	11		2	1	1	1		1	34
タヌキ	2	1	2		2			4	1	2	14
ハクビシン	1	3	4		3		2	1			14
ツキノワグマ				2	4	4	1	1	1		13
アカギツネ		1					3	3			7
ニホンイタチ	1	1									2
ニホンカモシカ					1						1
種判別不能		1	1				3		2		7
総計	12	26	26	8	25	40	64	47	17	11	276

表2 哺乳類各種の月別撮影回数 (2020年).

種名	撮影月(括弧内はカメラ稼働日数)									総計
	4月(29)	5月(31)	6月(30)	7月(31)	8月(31)	9月(30)	10月(13)	11月(21)	12月(31) [†]	
イノシシ	2	3	4	19	5	9	10	2	7	61
ニホンジカ	10	2	2	3	8	19	5	1	3	53
ツキノワグマ		1	3		3	3	2			12
ニホンノウサギ	1	4					2	1	1	9
タヌキ	1	3				1		1		6
ニホンカモシカ	2	1						1		4
アカギツネ	1	1							1	3
ニホンアナグマ	1									1
ネズミ類									1	1
種判別不能	1	1	1	6	2	2	3	1		17
総計	19	16	10	28	18	34	22	7	13	167

[†]積雪により未回収であったデータを整理した結果、既報からカメラ稼働日数・撮影回数が増加した。

ばしば撮影されており、それらが撮影回数に反映されていることが影響していると考えられる。また、イノシシの次に撮影回数が多くなかったニホンジカにおいても、単独のオスの他、親子と見られるメスの成獣と幼獣が同時に撮影される場合があり、それらが撮影回数に反映されていることが影響していると考えられる。

同調査地では2020年にも同一手法による調査を実施しており(福井県自然保護センター2021,表2)、2020年は3月の調査が無いことや、10月と11月のカメラ稼働日数が少ないという違いがあるものの、イノシシとニホンジカは2020年の結果でも撮影回数の1位、2位であり、本調査地でこの2種の撮影頻度が高くなる傾向は今後も続くであろうことが予想される。

イノシシやニホンジカ以外の哺乳類については、撮影頻度はイノシシやニホンジカより高くないものの、自動撮影カメラにより撮影された画像があることで、その年、その場所での生息の有無を確認することができることから、地域の哺乳類相の状況を把握する上で、今後も同様のモニタリング調査を継続的に実施することは重要であると考えられる。

引用文献

福井県自然保護センター. 2021. 福井県自然保護センター自然観察の森で自動撮影カメラにより撮影された哺乳類(2020年). Ciconia (福井県自然保護センター研究報告) 24: 25-28.